

フリー便風 (現場)からの 宮田守男

数字の語呂合わせでサンキュウから「ありがとうの日」。「思いやり」「誠実」「努力」といった言葉と並び、日本

本人が好む言葉でもある。ストレートに「口にするには気恥ずかしくなかなか言い出せない」「ありがとう」を日常生活の中で使っているのだろうか。歌手の水前寺清子の「ありがとうの歌」の歌詞「さわやかにみつめあいさわやか」「あに信じあう」今日も明日もありがとう」いつも優しい微笑みを今日も明日もありがとう」を思い出しながら、当たり前のようにな「ありがとうございました」と感謝を伝え、コロナ禍で傷ついた日々に明るさを取り戻す

「コーナーで、春は3段階で進む。だんだん日差しが強まり日の長さを実感する「光の春」、雪解けの水がしたたり、鳥のさえずりが聞こえてくる「音の春」」といふのが、東北地域は、春夏秋冬の四季の変わり目を強く感じる素晴らしい地域でもある。その素

晴らしい自然の中で暮らしている楽しさを感じするのも良いのだろう。「ウクライナでの戦争」「異常な物価上昇」「コロナ感染事態」「凶悪犯罪の多発」など山積する問題に「雪解け」と表現できる状況を待ちわびてしまう。

一見、無益な妄想が立場を変えると価値を生むとの発想がテーマで設立された世界妄想学会がある。妄想は「未来を創る力、それが妄想」。人間しか持

たない妄想のチカラ、「心躍る社会価値」につなげようと妄想が持つ魅力を情報発信している。千編以上のショートショートを生涯に残した作家の星雲一さんの作品の中に「妄想銀行」がある。



る人に売りさしだす内容だ。妄想だと考えられた事が、実現できた事例は数多い。人間しか持たない妄想の世界を、多くの人が勇気を持って語り合える社会が求められている。妄想を抱き続けることで

雪解けが進む水辺に福寿草の開花が春の訪れを告げている